第２次「統一インドネシア」内閣（ユドノヨ改造内閣）新任閣僚のプロフィール

《改造人事の概要》

●人事発表2005年12月５日、閣僚宣誓式12月７日

●新任閣僚：３人＝ブディオノ経済担当調整相、エルマン・スパルノ工業相、パスカ・スゼッタ国家開発計画担当国務相

●異動（横滑り）閣僚：３人＝アブリザル・バクリ（経済担当調整相→国民福祉担当調整相）、スリ・ムルヤニ・インドラワティ（国家開発計画担当国務相→財務相）、ファフミ・イドリス（労働・移住相→工業相）

●更迭：アルウィ・シハブ（前国民福祉担当調整相）、ユスフ・アンワル（前財務相）、アンドゥン・ニティミハルジャ（前工業相）

〔人物データ・ファイル〕

（◎＝調整相、■＝各省大臣、□＝国務相）

◎経済担当調整相

Coordinating Minister for the Economy

ブディオノ（博士）

Dr Boediono

ハビビ政権で国家開発計画担当国務相、メガワティ政権で財務相を歴任した財政・金融テクノクラート。経済専門家からは2004年のユドヨノ政権発足時から閣僚復帰を望む声が高かった。今回の内閣改造に当たって、「（閣僚復帰は）国民の信託」だとしてユドヨノ大統領から個人的に入閣を要請された。

政府“経済チーム”のトップとして、インフレ率の抑制と通貨安定などマクロ経済の安定を優先させながらも、景気刺激政策を導入することを強調している（これは、メガワティ政権下では緊縮財政でならした同〔ブディオノ〕氏だけに、実業界からの「過剰な引き締めは景気の冷え込みを招く」との憂慮に答えたものである）。また、こうした政策の遂行に当たって、中央銀行の金融政策とも密接に協調することを表明した。

冷静な理論家でありながら、官僚機構の統括にも長けた実務家の面も併せ持つ。非政党人で実業界の特定グループと利害関係を持たない点でも、同（ブディオノ）氏の現職就任は、経済専門家や海外投資家からは概ね歓迎の意が表明されている。

改造内閣では、同氏を中心にスリ・ムルヤニ財務相（横滑り）、マリ貿易相（留任）を加えた３人の博士号保持者のエコノミストを中核に経済政策が策定されることになる。

※中銀副総裁を経て、ハビビ、メガワティ両政権で経済閣僚に就任。1997－98年の“アジア金融危機”では、国際通貨基金（ＩＭＦ）と粘り強く交渉しながら、2003年にはインドネシアがＩＭＦの監督下から脱却するまで国内経済を回復させた手腕が評価された（今回の内閣改造に先立ち、同氏の閣僚復帰を待望する声が高かったのはこうした実績による）。閣僚復帰する前は、ガジャマダ大学経済学部教授。

▼データ

【年齢】62歳（1943年２月25日生まれ）

【生地】東ジャワ州ブリタル

【人種】ジャワ人

【宗教】イスラム教

【学歴】1967：ウェスタン・オーストラリア大学卒（経済学士：優等）、72：（豪メルボルン）モナシュ大学で経済学修士号取得、79：米ペンシルバニア大学ウォートン校で博士号（経営学）取得

【略歴】オーストラリア政府中央人口調査・統計局、バンク・オブ・アメリカ（ＢＯＡ）ジャカルタ支店に勤務ののち、1990年代に入りガジャマダ大学経済学部講師、93：国際復興開発銀行（ＩＢＲＤ）、イスラム開発銀行（ＩＤＢ）各総務代理（－98）、97：インドネシア銀行（中銀：ＢＩ）副総裁（財政金融政策担当）、98：（ハビビ政権）国家開発計画担当国務相（－99）、2001：（メガワティ政権）財務相（－04）、04：ガジャマダ大学教授、05：〔12月７日〕（第２次ユドヨノ内閣）経済担当調整相

【家族】ヘラワティ（Herawati）夫人との間に２子

【横顔】同（ブディオノ）氏に対しては、政府の景気刺激政策に期待する実業界からは「冷静な人柄で卓越した経歴の持ち主だが、実業界の成長に関して実績があるわけではない」（トーマス・インドネシア飲食品業者連合〔Gapmmi〕会長）との冷めた見方もある。

◎国民福祉担当調整相

Coordinating Minister for People's Welfare

アブリザル・バクリ

Aburizal Bakrie

プリブミ（非華人系現地人）実業家の大物でゴルカル党幹部。改造人事で経済担当調整相ポストをブディオノ氏に譲り、現職に横滑りとなった。もともと、ユドヨノ政権発足時に経済担当調整相に抜てきされたのは、プリブミ実業家の“同志”であるユスフ・カラ副大統領の強い推薦があったからで、外資や華人系資本が重要な位置を占めるインドネシア経済全体を把握し、適切なマクロ的政策を打ち出す実力があるかという点では当初から疑問を呈する専門家が多かった。また、最大政党の幹部であり、実業界の特定グループと利害関係が深いことも何かと疑惑の対象になった。ユスフ・アンワル前財務相（更迭）との不仲もポスト替えの要因になった。

※バクリ・ブラザーズ社（スマトラのプリブミ企業）の３代目社長。1972年にインドネシア青年起業家機構を創設している。1994年から2004年までインドネシア商工会議所（Kadin）の会頭を連続２期務めた。

▼データ

【年齢】59歳（1946年11月15日生まれ）

【生地】ジャカルタ首都特別州

【政党】ゴルカル党（Golkar）

【人種】アラブ系

【宗教】イスラム教

【学歴】1973：バンドン工科大学（ＩＴＢ）卒（電気工学）

【経歴】1988：国民協議会（ＭＰＲ）議員、91：東南アジア諸国連合（ＡＳＥＡＮ）ビジネ

ス・フォーラム会長(連続２期)(－95)、93：ＭＰＲ議員(－98)、94：インドネシア商工会議所(Kadin)会頭(連続２期)(－2004)、04：Kadin顧問、［10月21日］(第１次ユドヨノ内閣)経済担当調整相、05：［12月７日］(第２次ユドヨノ内閣)国民福祉担当調整相

【民間】1972：「バクリ・アンド・ブラザーズ」社取締役会補佐、74：同社副社長、82：同社社長、88：「バクリ・ヌサンタラ・コーポレーション」社長(－92)、89：「バクリ企業グループ」会長(－92)

【活動】1996：アジア協会国際顧問(－97)、2000：インドネシア・ムスリム知識人協会(ＩＣＭＩ)専門委員会委員(－05)

【横顔】改造人事でのポスト替えには、10月初めに石油製品の大幅値上げを断行したことで、貧困層の“怨嗟”の声を一身に受けることになったという不運な背景もある。

＊(スハルト政権で国家開発計画担当国務相や経済・財政・産業開発担当調整相などを歴任した)ギナンジャール・カルタサスミタ現地方代表議会(ＤＰＤ)議長との親交を利用し、石油公社プルタミナの利権に絡んでビジネスを拡大してきたという側面がある。同(アブリザル)氏同様の「ギナンジャール・ボーイズ」には、ファフミ・イドリス現工業相、闘争民主党(ＰＤＩ－Ｐ)幹部で石油会社ＭＥＤＣＯ社長のアリフィン・パニゴロ氏などがいる。

■財務相

Minister of Finance

スリ・ムルヤニ・インドラワティ(博士)

Dr Sri Mulyani Indrawati

改造人事で国家開発計画担当国務相から現職に“昇格”した。ユドヨノ大統領は2004年の政権発足時に、同(スリ・ムルヤニ)氏を財務相に任命する意向を持っていたが、与党連合を構成するイスラム主義政党の福祉正義党(ＰＫＳ)などから“親西欧”、“親ＩＭＦ”に過ぎるとの反対があったために、最終的に国務相への就任に落ち着いたという経緯がある。

改造人事での同氏の財務相への異動は、ブディオノ調整相の就任とも相まって大統領が本来望んできた“経済チーム”が結成されたことを意味する。

インドネシア経済の現状にはシビアな見方をしており、現職就任に当たって、2006年の国内総生産(ＧＤＰ)伸び率の目標6.2%について、「達成は可能だが、高インフレのため容易ではない」との認識を示している。また、インフレ率は、2006年も２ケタ台で推移しそうだとの見通しを表明した。

※2002年から国際通貨基金(ＩＭＦ)東アジア代表理事を務め、日本も含めた先進諸国の政治家・官僚からインドネシアを代表する女性エコノミストとして評価されてきた。

▼データ

【年齢】43歳(1962年８月26日生まれ)

【生地】ランプン州タンジュンカラン

【人種】ジャワ人

【宗教】イスラム教

【学歴】1986：インドネシア大学(ＵＩ)経済学部卒、90：米イリノイ大学で修士号(経済学)取得、92：同大学で経済学博士号取得

【経歴】1985：ＵＩ経済学部助教授・教授(－2004)、90：イリノイ大学助教授(－92)、98：UI社会経済研究所(ＬＰＥＭ)所長(－2004)、99：(ワヒド政権)国家経済評議会委員、2001：米国際開発局(ＵＳＡＩＤ)コンサルタント(アトランタ)、02：国際通貨基金(ＩＭＦ)東アジア代表理事、04：［10月21日］(第１次ユドヨノ内閣)国家開発計画担当国務相、05：(第２次ユドヨノ内閣)財務相

【家族】夫君はトニー・スマルトノ(Tonny Sumartono)氏。子供３人。

【横顔】今清水浩介・日本貿易振興機構(ジェトロ)ジャカルタセンター所長は「(同氏には)マクロ経済の安定に加え、産業・工業面で方向感のある政策を打ち出し、投資家が安心して事業展開できるような環境作りに力を発揮してほしい」と要望している(MSN Japan12月７日付)。

■工業相

Minister of Industry

ファフミ・イドリス

Fahmi Idris

改造人事で、労働・移住相から現職に横滑りした。ゴルカル党副総裁で、2004年以降はユスフ・カラ総裁(副大統領)と政治的な命運を共にすることでユドヨノ政権入りを果たした。

就任直後に、自動車産業について、投資調整庁(ＢＫＰＭ)長官とともに日本の投資家を招いて「自動車産業の発展に必要な条件で、マレーシアやタイにあってインドネシアには不足しているもの」を聞いてみたいと述べるなど、同産業の振興に関心が強いことを明らかにした。

※スハルト政権時代に学生運動家から(旧)ゴルカルに参加し、中央執行委員を務めるなど政治家として頭角を現した。「コデル・グループ」総帥という実業家の顔もある。ハビビ政権で労相を務めたことがあり、2004年発足の第１次ユドヨノ内閣で同じポストに復帰した。

▼データ

【年齢】62歳(1943年９月20日生まれ)

【生地】ジャカルタ首都特別州

【政党】ゴルカル党(Golkar)：副総裁

【人種】ミナンカバウ人

【宗教】イスラム教

【学歴】インドネシア大学(ＵＩ)経済学部中退

【経歴】学生運動家、実業家(「コデル(Kodel)・グループ」総帥)、1993：(旧)ゴルカル中央執行委員(ビジネス・経済業務部長)、のちゴルカル党副総裁、98：［５月］(ハビビ内閣)労働相(－99：［10月］)、2004：［10月21日］(第１次ユドヨノ内閣)労働・移住相、05：［12月７日］(第２次ユドヨノ内閣)工業相

【家族】カルティニ(Kartini Hasan Basri)夫人

【横顔】2004年の大統領選でメガワティ候補(大統領：当時)支持を決定したゴルカル党執行部に造反して、ユスフ・カラ氏(現副大統領)が副大統領候補としてペアを組むユドヨノ候補(現大統領)支持を表明し、同年11月には党副総裁を解任された(のちに、ユスフ・カラ氏が党総裁に選出されたことに伴い、副総裁に再任)。

■労働・移住相

Minister of Manpower and Transmigration

エルマン・スパルノ

Erman Suparno

国会第６党・民族覚醒党（ＰＫＢ）の財務委員長。前任者のファフミ氏が工業相に横滑りしたことに伴い、現職に起用された（初入閣）。改造人事における“ダークホース”的存在で、人事を巡る政治交渉の“最終段階”で民族覚醒党（ＰＫＢ）創設者のワヒド元大統領が同意したことで、入閣が決定した。

ＰＫＢは、ユドヨノ政権発足時にアルウィ・シハブ前国民福祉担当調整相（改造人事で更迭）、サイフラ・ユスフ後進地域開発促進担当国務相（留任）が入閣したことを巡って、ワヒド元大統領らの主流派（ムハイミン・イスカンダル総裁）と造反派（現「コイルル・アナム派」）に分裂した。しかし、改造人事で造反派のアルウィ氏が更迭され、主流派から同（エルマン）氏が入閣したことで、両派の和解と党再統一への道が開けた。ユドヨノ政権は、同氏の人事によってこれまで野党勢力だったＰＫＢを政権内に取り込むことに成功した。

※国営建設会社勤務などを経て、1999年に民族覚醒党（ＰＫＢ）から国会議員に当選し中央政界入り。入閣前は国会（ＤＰＲ）第５（運輸通信・公共事業）委員会委員長だった。現職（労相）では、雇用創出、移民労働者問題などの難問に取り組むとともに、実業界の要請を労働政策にどう加味していくかが問われる。

▼データ

【年齢】55歳（1950年３月20日生まれ）
【生地】中ジャワ州プルウォレジョ
【政党】民族覚醒党（ＰＫＢ）：財務委員長
【人種】ジャワ人
【宗教】イスラム教
【学歴】1986：インドネシア・ムスリム大学（ＵＭＩ）卒（土木工学）、インドネシア大学（ＵＩ）で修士号（公共管理学）取得、（米カリフォルニア）ニューポート大学で経営学修士号（ＭＢＡ）取得
【経歴】1970年代：国営建設会社「プンバングナン・プルマハン（PT Pembangunan Permahan）」南スラウェシ州支社長、99：国会（ＤＰＲ）議員（ＰＫＢ）、2004：［４月総選挙］ＤＰＲ議員に再選、ＤＰＲ第５委員会副委員長、05：同委員長、［12月７日］（第２ユドヨノ内閣）労働・移住相
【民間】建設会社「PPタセイ・インドネシア・コンストラクション（PT PP Tasei Indonesia Construction）」社長、「ハルマ・インプラシンド（PT Harma Imprasindo）」社、「サミアジ・インドネシア・プリマ（PT Samiaji Indonesia Prima）」社各会長、「ワリ・スパリンド・ウタマ（PT Wali Suparindo Utama）」社社長
【活動】「サミアジ（Samiaji）インドネシア文化財団」理事長、アトマジャヤ・カトリック大学講師
【党務】2000：ＰＫＢ副財務委員長、05：同委員長
【家族】ムリアナ・リダ（Meliana Rida Widyasututi）夫人との間に４子
【横顔】1970年代に国営建設会社の南スラウェシ州支社長だった頃から、同州出身のユスフ・カラ現副大統領と親交を深めてきており、同（エルマン）氏の入閣は副大統領の水面下での“工作”によるところが大きい。同氏はワヒド元大統領の“側近”でもあり、ユドヨノ政権とＰＫＢの“架け橋”になるには最適の人物だとみてよい。

□国家開発計画担当国務相／国家開発庁（Bappenas）長官
State Minister of National Development Planning / Chairperson of the National Planning Agency
パスカ・スゼッタ
Paskah Suzetta

改造人事で前任者のスリ・ムルヤニ氏が財務相に“昇格”したことに伴い、現職に起用された（初入閣）。前職は、金融・国家開発計画を担当する国会（ＤＰＲ）第９委員会の委員長であり、その立場から第１次ユドヨノ政権の経済政策には手厳しい批判を展開してきた。行政府入りしたことで、逆に政界・経済界から“お手並み拝見”という目で見られる立場となった。

同（パスカ）氏の入閣で、国会第１党であるゴルカル党（総裁＝ユスフ・カラ副大統領）は、第１次ユドヨノ内閣より１人多い３人の閣僚を確保した（他の２閣僚は、アブリザル調整相とファフミ工業相）。この閣僚数は、（推薦閣僚も含めると）イスラム主義を掲げる国会第７党・福祉正義党（ＰＫＳ）と同じで政党別では閣内の最大勢力である。

※バンドンを拠点に、1980年代から西ジャワ州のチビノン、チチャレンカなどで土地・不動産開発プロジェクトを手がけ、パダランでは広大な住宅団地を建設した。バンドン市街では、ホテル開発やオフィスビル建設にも参画している。不動産および貿易の２社を創設し、不動産開発の「トリニティ・グループ」を率いるなど西ジャワ州経済界の重鎮である。

政治活動では、「パンチャシラ青年団（Pemuda Pancasila）」などへの参加を経て、92年に旧ゴルカル代表のＤＰＲ議員に選出され中央政界入りした。99年からは新生・ゴルカル党から議員に再選されている。

▼データ

【年齢】52歳（1953年４月６日生まれ）
【生地】（西ジャワ州）バンドン
【政党】ゴルカル党（Golkar）：副財務委員長
【宗教】イスラム教
【学歴】1990：（バンドン）パジャジャラン大学政治学部卒、96：インドネシア企業家実践大学（ＩＰＷＩ）で経営学修士号（ＭＢＡ）取得、2002：パジャジャラン大学で修士号（商法）取得
【経歴】1992：国会（ＤＰＲ）／国民評議会（ＭＰＲ）議員（ゴルカル）、ＤＰＲ第４委員会委員、97：ＤＰＲ/ＭＰＲ議員、ＤＰＲ第８委員会委員、99：ＤＰＲ議員、ＤＰＲ第９（金融・国家計画）委員会委員長、2004：［４月総選挙］ＤＰＲ議員（ゴルカル党）、ＤＰＲ第９委員会委員長、05：［12月７日］（第２ユドヨノ内閣）国家開発計画担当国務相
【民間】不動産会社「プリサイ・ダヤ・ウサハ（PT Perisai Daya Usaha）」、貿易会社「プリサイ・ダヤ・チプタ（PT Perisai Daya Cipta）」各創設者、「トリニティ・グループ」総帥、1998：インドネシア商工会議所（Kadin）西ジャワ州支部諮問委員会委員長
【家族】ニャンユ・ラニ（Nyanyu Ranni Zahindrun）夫人との間に３子
【横顔】「（パスカ氏のポストは）権限が小さいことから、ブディオノ経済調整相とスリ・ムルヤニ財務相との関係では、困難も予想されるが、同氏は国会での経歴が長いこともあり、経済関連の法案審議の点では（政権には）有利になるだろう」（ドラジャット第９委員会委員）

（アジア・リンケージ　勝田 悟）

2006年：ＡＳＥＡＮ各国の会議・行事等の日程（国別）

［凡例］
■＝国際会議・行事・要人訪問等
◎＝選挙・祭日・記念日等
＊＝施設開設式・学会等

略字：
ＡＰＥＣ（アジア太平洋経済協力会議）
ＡＳＥＡＮ（東南アジア諸国連合）
ＡＢＡＣ（ＡＰＥＣビジネス諮問委員会）
ＡＳＥＡＮ＋３（ASEAN＋日本、中国、韓国）
ＡＲＦ（ＡＳＥＡＮ地域フォーラム）
注①：「一月中」、「一月上旬」などの記述は本稿執筆時点で正確な日程が未定であることを示す
注②：祭日・記念日については、政治的に重要な意味を持つか、テロなど治安事案が発生する可能性がある日のみ掲載した。

《インドネシア》
［１月中］　■ＡＳＥＡＮ災害管理委員会（ＡＣＤＭ）第6回会合
［２月13日］■第２回ＡＳＥＡＮクルーズ振興フォーラム会合（スマラン）
［４月26日］■第13回ＡＳＥＡＮ航空運輸作業部会会合（～27日、スラバヤ）
［５月16日］■第39期ＡＳＥＡＮ常任委員会第３回会合（～18日、ジャカルタ）
［７月23日］■第39期ＡＳＥＡＮ常任委員会第４回会合（～14日、ジャカルタ）

《フィリピン》
［１月９日］◎ブラックナザレ祭（マニラ市キアポ教会）
［１月15日］■第８回ＡＳＥＡＮ＋３政府観光機関会合（ＮＴＯｓ＋３）（ダバオ）
［１月17日］■第５回ＡＳＥＡＮ＋３観光担当相会合（Ｍ－ＡＴＭ＋３）（ダバオ）
［１月18日］■ＡＳＥＡＮ観光会議（ダバオ）
［１月16日］■ＡＰＥＣバイオセーフティ政策オプション会議（～18日、マニラ）
［３月１日］■ＡＲＦ信頼醸成措置支援グループ会合（ISG-CBMs）（～3日）
［３月16日］■ＡＳＥＡＮ＋３研究グループ会合（マニラ）
［３月28日（暫定的）］■ＡＰＥＣ・第30回産業科学技術作業部会（ＩＳＴＷＧ）会合（～29日、マニラ〔暫定的〕）
［４月14日］◎復活祭の聖金曜日
［６月12日］◎独立記念日
［７月４日］◎比米友好記念日
［７月23日］◎日本・フィリピン国交樹立50周年
［８月14日］■ＡＰＥＣ・ＡＢＡＣ第３回会合（～17日、セブ）
［11月１日］◎万聖節（諸聖人の日）
［12月25日］◎クリスマス
［12月30日］◎リサールデー（記念日＝祝日）

《タイ》
［１月中］＊バンコク第2国際空港「スワンナプーム空港」が開港
［１月24日］■アチェ和平合同治安委員会（JSC）会合（～26日）
［２月24日］■アチェ和平合同治安委員会（JSC）会合（～26日）
［３月中］◎上院議員選挙
［３月22日］■第11回ASEAN海上輸送作業部会会合（～23日、プーケット）
［４月14日］◎ソンクラーン祭り（タイ正月、タイ全土）
［５月中旬］■米タイ合同軍事演習
［９月中］■APEC・第5回人材養成担当大臣会合（バンコク）
［11月15日］◎ロイ・クラトーン祭り（タイ全土）
［12月5日］◎プミポン国王誕生日

《マレーシア》
［１月16日］■第２回ＡＳＥＡＮ＋３「新・再生可能エネルギー（ＮＲＥ）/環境教育・コミュニケーション（ＥＥ＆Ｃ）フォーラム」/「ＡＳＥＡＮ＋３天然ガス・フォーラム」（～19日、マラッカ）
［１月23日］■APEC・自由貿易協定（ＦＴＡ／ＲＴＡ）交渉に関する上級トレーニング・ワークショップ（～25日、クアラルンプール）
［５月17日］■ＡＲＦ高級事務レベル会議（ＳＯＭ）（～20日、クアラルンプール）
［６月４日］◎サイドシュラジュディン国王誕生日
［８月31日］◎国家記念日（ハリ・クバンサン）

《ブルネイ》
［４月中］■ASEAN科学技術委員会（ＣＯＳＴ）会合（バンダルスリブガワン）

《シンガポール》
［１月22日］■ＡＰＥＣビジネス諮問委員会（ＡＢＡＣ）2006年第1回会合（～25日）
［３月中］■ＡＲＦ「大量破壊兵器不拡散に関するセミナー」
［３月16日］■英エリザベス女王・エジンバラ公夫妻が訪問（～18日）
［３月29日（暫定的）］■APEC財政管理委員会（ＢＭＣ）第1回会合（～30日、ＡＰＥＣ事務局）
［４月26日］◎日本・シンガポール国交樹立40周年
［５月15日］■ＡＰＥＣ・エネルギー作業部会第31回会合（～19日）
［８月９日］◎ナショナルデー（祝日）
［９月19日］■国際通貨基金（ＩＭＦ）・世銀年次総会（～20日）
［10月10日（暫定的）］■ＡＰＥＣ・ＢＭＣ第２回会合（～12日、ＡＰＥＣ事務局）

《ベトナム》
【第一四半期】■ＡＲＦ「ＳＡＲＳ、鳥インフルエンザ等感染症の拡大防止・抑制における軍・市民協力の役割に関するセミナー」（ハノイ）
【春】◎ベトナム共産党（CPV）大会
［２月３日］◎CPV創設76周年
［４月30日］◎ベトナム戦争終結31周年
［５月19日］◎ホー・チ・ミン生誕116年
［６月14日］■APEC・財務相会合（FMM）技術作業部会（TWG）第22回会合（～16日、ニャチャン）
［７月２日］◎南北統一記念日
［９月２日］◎ベトナム社会主義共和国建国記念日
［９月７日］■APEC・第13回財務相会合（～8日、ハノイ）
［11月14日］■APEC・ABAC第4回会合（～16日、ハノイ）
［11月17日］■APEC・最高経営者（CEO）サミット（～19日、ハノイ）

《ラオス》
［１月24日］■第３回ＡＳＥＡＮ青年問題高級事務レベル会合（ＳＯＭＹ）/第２回ＡＳＥＡＮ＋３青年問題高級事務レベル会合（ＳＯＭＹ＋３）（～26日、ビエンチャン）

《カンボジア》
［１月７日］◎「解放記念日」
［２月21日］■第10回ＡＳＥＡＮハイウェイ小作業部会会合（～22日、プノンペン）
［２月23日］■第11回ＡＳＥＡＮ運輸促進作業部会会合（～24日、プノンペン）
［４月３日］■非公式ＡＳＥＡＮ＋３財務相・中央銀行総裁代理会合（シエムリアプ）
［４月４日］■ＡＳＥＡＮ＋３財務相・中央銀行総裁代理会合（シエムリアプ）
［４月５日］■ＡＳＥＡＮ財務相会合（シエムリアプ）
［11月９日］◎独立記念日

《ミャンマー》
［１月13日］■ＡＳＥＡＮ観光フォーラム2006（～21日、ヤンゴン）
［３月２日］◎農民の日
［３月27日］◎国軍記念日
［５月３日］■第11回ASEAN陸上運輸作業部会会合（～4日、ヤンゴン）
［５月30日］◎民主化運動指導者アウン・サン・スー・チーさん拘束から3年
［７月19日］◎殉難者の日

《東ティモール》
［５月20日］独立記念日

域外で開かれるＡＳＥＡＮ関連会議・行事・催事等

〈日本〉
［１月18日］■第3回日ASEAN次世代航空保安システム専門家会合（～20日、福岡）
［１月24日］＊第11回アジア南太平洋設計自動化会議（ASP－DAC2006）（～27日、パシフィコ横浜）
［３月７日］＊モンスーンアジア農業生態系における温室効果ガス発生に関する国際ワークショップ（～3月9日、つくば国際会議場ほか）
［３月９日］＊防災に関する国際シンポジウム（ISMD2006）（～11日、高知県香美市・高知工科大学）
［５月23日］■第56回国際青年会議所アジア太平洋会議（ＪＣＩ－ＡＳＰＡＣ）高松大会（～28日、本会議は25日に高松市・サンポート高松で）
［６月中］■第４回日・ＡＳＥＡＮ運輸政策ワークショップ
［７月９日］＊2006年世界政治学会福岡大会（～13日、福岡国際会議場）
［７月30日］＊第９回アジア太平洋保険リスク学会年次総会（～８月２日、東京都・明治大学リバティタワー）
［８月16日］＊第11回国際交通行動学会（～20日、京都市・京都大学時計台）
［11月12日］＊第５回東アジア生物物理学シンポジウム（～16日、沖縄コンベンションセンター）
［11月21日］＊アジア結晶学会（AsCA2006）（～23日、つくば国際会議場）
［11月26日］＊第4回世界製鉄会議（～29日、大阪府）
［12月18日］◎日本の国連加盟50周年

〈中国〉
［３月20日］■ＡＰＥＣ・小企業サブグループ（ＭＥＳＧ）第５回会合（北京）
［３月21日］■ＡＰＥＣ・中小企業作業部会（ＳＭＥＷＧ）第22回会合（～22日、北京）

〈台湾〉
【春】■「アジア大都市ネットワーク21」（台北）

〈インド〉
［５月３日］■ＡＳＥＡＮ＋３財務相・中央銀行総裁代理会合（ハイデラバード）
［５月４日］■ＡＳＥＡＮ＋３財務相会議、アジア開発銀行（ＡＤＢ）年次総会（～６日）（ハイデラバード）

〈米国〉
［９月中］■第61回国連総会（ニューヨーク）

〈カナダ〉
［４月23日］■ＡＰＥＣ・電気通信作業部会（ＴＥＬＷＧ）第33回会合（～28日、カルガリー）
［５月９日］■ＡＰＥＣ・ＡＢＡＣ第２回会合（～12日、モントリオール）

〈チリ〉
［７月20日］■ＡＰＥＣ・持続可能な開発に関する上級（次官レベル）会合（～21日、サンチャゴ）

（アジア・リンケージ　勝田 悟）